



YMI WORLD

「強い義務感を持とう 義務はすべての権利に伴う」

ワイズメンズクラブ国際協会

2025年12月



48年間デンマークで愛されてきた伝統である ワイズメンのクリスマス カレンダーは、楽しいお祭り気分、隠れたサプライズ、そして意義深い募金活動をもたらし、デンマーク全土の人道支援活動や青少年団体を支援しています。

デンマークの クリスマスカレンダーの伝統

デンマークのワイズメンクラブは、48年連続で毎年恒例のクリスマスカレンダーを発行しており、青少年団体、学校、スポーツ協会などを通じて全国で約3万部を配布しています。

ワイズメンのクリスマスカレンダーは、今も大切に受け継がれてきた伝統です。印刷費用は、裏面の広告スペースをスポンサーとして提供していただく広告主の協力によって賄われています。カレンダーは1枚50デンマーククローネで販売され、その収益（約150万デンマーククローネ）は、デンマーク国内外の人道支援活動やデンマークの青少年団体への支援に充てられます。

長年のイラストレーター、ラスムス・サンド・ホイエルが誇りを持ってデザインしたこのカレンダーには、王室、政治家、著名人の色鮮やかな似顔絵が描かれており、読者が発見できる隠されたユーモラスな詳細が満載です。

各カレンダーには、24個の窓の裏にそれぞれ200デンマーククローネのギフトカードが当たるチャンスがあります。また、窓の裏側にある24個の文字を組み合わせで作った歌詞から、有名なクリスマスソングを当てるゲームに参加することもできます。今年は、ラスムス・サンド・ホイエルが、各窓のモチーフのミニチュア版を前面のイラストの中に隠すことで、さらに楽しさを演出しています。



編集長から

YMI ワールドに関するご意見やアイデアを共有するには、編集者にご連絡ください。

1月は

EF（エンダウメントファンド）の強調月間です。

インパクトのあるストーリーを投稿するには、以下をクリックしてください。

締め切り：2025年12月15日

[編集長へ](#)

目次

この出版物の内容は、YMIクラブの献身的な会員および役員の寄稿によるものであり、心から感謝申し上げます。また、外部からの記事やメッセージも随時掲載されることがあります。その場合は、寄稿者の方々に改めて感謝の意が表されます。

デンマークのクリスマスカレンダーストーリー ビルジット・ジェイコブセン ヨーロッパ地域ニュース編集者	p. 2
国際会長メッセージ エドワード・オン 国際会長	p. 4
国際本部ニュース ジョース・ヴァルギース 国際書記長	p. 5
YMIフェスティバル・オブ・ドリーム2026 - 登録ページ	p. 6
新しいiGoのチャンス！	p. 7
創立記念日： ポール・ウィリアム・アレキサンダー判事を称えて	p. 8
キリスト教強調：サンタクロースって誰？ ヴィリー・モルゴー キリスト教強調国際事業主任	p. 9
国際兄弟クラブ: 国際兄弟クラブは YMI 運動を推進できるか？ ジョウン・ウォン IBC国際事業主任	p. 10
アフリカ地域ニュース ジョウン・マティ アフリカ地域ニュース編集者	p. 11
アジア太平洋地域ニュース 利根川恵子 アジア太平洋地域ニュース編集者	p. 12
カナダ/カリブ海諸国地域ニュース ジョウン・ウィルソン元国際会長、サンドラ・ハミルトン 元地域会長	p. 13
ヨーロッパ地域ニュース ビルジット・ジェイコブセン ヨーロッパ地域ニュース編集者	p. 16
インド地域ニュース ジョセフ・ヴァルギース インド地域ニュース編集者	p. 17
韓国地域ニュース チョン・ギョンジュ 韓国地域ニュース編集者	p. 19
米国地域ニュース メラニー・カアイフエ・ヨシダ 米国地域ニュース編集者	p. 21
国連デー - 12月 ロイズ・マラセリー教授 - 国連プロジェクト委員会メンバー	p. 22
あなたはプレッシャーを感じていますか？ ジョン・ビットルストン テリフィック・メンターズ・インターナショナル	p. 23
感謝祭 エドワード・オン 国際会長	p. 24



国際会長メッセージ

エドワード・K・W・オン 国際会長／編集長

12月に入り、2025/26年度の中盤も終わりに近づいています。今こそ、これまでの成果を振り返り、目標達成に向けて今後6ヶ月間の戦略を練る絶好の機会です。

今月は、国際兄弟クラブ(IBC)・プログラムとキリスト教強調という2つの重要な取り組みに焦点を当てます。どちらも、私たちに自分自身を超えて考えることを促しています。

IBCプログラムは、国境を越えた友情、つまり理解、相互励まし、そして実践的な支援を育むパートナーシップの中にこそ、見出される強さがあることを私たちに思い出させてくれます。キリスト教強調は、私たちの行動を、思いやり、奉仕、そして私たちの運動を形作る価値観に根ざしたものにしようと呼びかけています。

ここ数ヶ月、多くの国で深刻な洪水、熱波、山火事、地震、台風など、前例のない自然災害や環境危機に関するニュースが相次いで報じられています。これらの災害は、愛する人、家、財産の喪失、そして疾病の蔓延と深刻な経済的困窮をもたらしています。

YMIの各区およびクラブの皆さまには、すべてのYMIプログラムへの献金を増やすよう強くお願いいたします。近年、プログラム全体の献金が長期にわたって深刻な減少傾向にあることを目の当たりにしています。この傾向は、地域社会のニーズに効果的に対応し、国際プロジェクトの目標を達成する私たちの能力を制限しています。プログラムへの支援が減少すれば、脆弱な立場にある人々を支援し、支援する私たちの集団的な力も減少します。したがって、クラブおよび各区の皆さまには、改めてご支援をお願いいたします。プログラムへの献金を回復・増加させることで、ワイズメンズクラブ国際協会が、慈悲と奉仕、そして永続的な影響を緊急に必要とする世界において、力であり続けることを確信いたします。

12月は、思いやりのある贈り物を贈る季節でもあります。クリスマスは、神の化身であるイエスの誕生、預言の成就、そして御子である救い主を通しての救いの計画の始まりを思い起こさせます。クリスマスは、惜しみなく与えられた恵み、行いを通して表される愛、そして「最も小さい者」(マタイ25:40)を顧みよという呼びかけについて深く考える機会となります。

この聖なる季節を祝うにあたり、愛と寛大な心で献金しましょう。プログラムへのご支援の拡大が、希望を分かち合い、思いやりを育み、そして最も必要とする場所に光をもたらすという、クリスマスのメッセージを意義深く表現するものとなりますように。

このクリスマスシーズンの祝福があなたの家庭に愛と平和と再生をもたらしますように。



国際本部ニュース

国際書記長

ジョース・ヴァルギース

**「いと高き天には栄光、神にあれ。地には平和、御心に
かなう人々にあれ。」（ルカ2:14）**

2025年の最後の月を迎え、クリスマスと新年を迎える準備を進める中、私たちは振り返り、感謝の気持ち、そして新たな決意の季節を迎えたいと考えています。12月8日、創設者であるポール・ウィリアム・アレキサンダー判事の誕生日に、YMIは創立記念日を盛大に祝います。この日は、私たちの運動を形作ってきた人々のビジョン、献身、そしてリーダーシップを称える日です。

11月15日に開始された第75回ドバイ国際大会への登録は、世界中の会員の皆様から大変好評をいただいています。大会会場ホテルの割引料金での客室は、限定数のため、参加者の皆さまには、早めにご登録いただくようお願いいたします。[\(IC 26 登録リンク\)](#)

100日会員増強キャンペーンは12月9日に終了します。この期間中にインド、米国、韓国、そしてヨーロッパで多くの新クラブが結成され、素晴らしい取り組みが行われたことを大変嬉しく思います。この目覚ましい進歩に貢献してくださったすべての会員の皆さまに感謝申し上げます。

国際選挙は2025年12月12日に始まり、2026年1月26日に終了します。国際問題に関する投票資格のあるクラブには、国際本部に提供された指定の電子メールアドレスに投票リンクが送信されます。投票資格のあるクラブのリストは、YMIウェブサイトで公開されます。

TOF基金への申請締め切りは、12月15日まで延長されました。対象となるクラブおよびYMCAの皆さまは、[オンライン申請フォーム](#)から申請を提出していただけますようお願いいたします。

YMIの各国際プログラムへの会員一人当たり最低5スイスフランの献金を各クラブにお願いしています。これにより、YMCAのグローバルな活動への力強い継続的なご支援が確保されます。YMCAのチェンジ・エージェント・プログラムを支援するために、ASFによる特別な募金活動が開始されました。[パンフレット](#)も用意しています。

2026～28年の国際ユース代表（IYR）選挙が今月行われます、4人の候補者が立候補しています。

12月は、国際兄弟クラブ（IBC）とキリスト教強調の強化月間です。IBCのパートナークラブをお持ちでないクラブは、他国のクラブとのIBC設立をご検討ください。IBC設立申請書は、オンラインで入手可能です。また、IBC一覧表にもアクセスできます。[IBC関係申請書](#)

国際本部は、2025年12月23日からクリスマスおよび年末休暇のため閉鎖され、2026年1月5日に再開されます。国際本部スタッフのトング、トレーシー、ジェイムズ、アミンは、私と共に、皆さまが祝福されたクリスマスと幸せな新年を迎えられるよう、心からお祈り申し上げます。



第75回国際大会
ミレニアムプラザ ダウンタウン ホテル
ドバイ、アラブ首長国連邦

ワイズメンズクラブ国際協会
2026年国際大会
2026年9月10～13日
夢の祭典

世界で最も未来的な都市で不可能な夢を夢見る

- 3泊4日のイベントプログラム
- 大会期間中の食事はすべて含まれています。
- 会場ホテルのツインシェアルーム（朝食付き）は**1泊97米ドル**から
- フレキシブルなエクスカージョン – 複数の現地体験からお選びいただけます。

スーパーアーリーバード
2025年11月15日～2026年1月31日
475米ドル

アーリーバード
2026年2月1日～2026年4月30日
495米ドル

通常
2026年5月1日～2026年7月31日
600米ドル



スーパーアーリーバード登録は開始されています。
詳細情報や登録についてはウェブサイトをご覧ください。

www.ysmen.org/ic2026

新しいiGoインターンシップの機会



実践的なスキル、異文化体験、そしてユニークな国際的視点を身につけましょう！iGoで学びとキャリアを向上させるこの機会をお見逃しなく。

2026年2月

場所：インド・チェンナイ ヒンドウスタン大学
(技術・科学研究所)



- 期間: 2026年2月2日～4月30日（柔軟対応、最低滞在日数5日）
- 宿泊施設: ホステルスタイルの宿泊施設を提供します。
- インターンシップ体験: 教室での講義や、業界に密着した研究所での実習に参加します。南インド地域でワイズメンやYMCAの活動に参加します。

応募受付中です！締め切りは2025年12月30日です。応募：右をクリック

APPLY NOW



ヒンドウスタン大学の詳細については、<https://hindustanuniv.ac.in> をご覧ください。また、[ヒンドウスタン大学のパンフレット](#)もご覧ください。



2026年6月

タイ、チェンマイYMCA

- 期間: 2026年6月1日～8月31日
- 詳細は、日が近づき次第公開されます。募集は、2026年3月に開始される予定です。

インターンシップの機会を提供することに興味がありますか？

[ここをクリック](#)



ポール・ウィリアム・アレキサンダー判事を称えて

私たちの伝統を称え、私たちの未来を刺激する

毎年12月8日、ワイズメンズクラブ国際協会のファミリーは、1888年のこの日に生まれたポール・ウィリアム・アレキサンダー判事の生涯を偲び、祝い、その人生からインスピレーションを得ます。彼のビジョン、人格、そして開拓者精神は、運動開始から1世紀以上経った今もなお、私たちの道を照らし続けています。創立記念日は、彼への敬意を表するだけでなく、私たちが何者であり、なぜ存在するのかを再確認する日でもあります。

アレキサンダー判事は、ごく普通の人々が友愛の精神で結ばれれば、世界で並外れた善行を成し遂げられると信じていました。1920年代初頭、彼と献身的なYMCAボランティアの小集団が初期のワイズメン運動の設立に尽力した当時、彼らは、自分たちの夢がどれほど遠くまで届くか想像もしていませんでした。オハイオ州トレドの最初のクラブから、この運動は、急速にカナダ、アジア、ヨーロッパ、オーストラリア、そしてそれ以外の地域へと広がり、奉仕、友情、そしてYMCAとの有意義なパートナーシップを重視する世界的な友愛団体へと成長しました。

先見の明を持つリーダー、情熱的なボランティア、そして数え切れないほどのメンバーによって築かれたこの豊かな伝統は、YMIが単なる組織以上の存在であったことを私たちに思い出させてくれます。それは、慈悲の心に導かれ、愛、犠牲、奉仕という時代を超えた価値観に根ざした、使命を重んじるコミュニティです。国境を越え、違いを乗り越え、共通の目的、つまり世界に永続的で前向きな変化をもたらすという目的のために人々を結びつける友愛の絆です。

創立記念日を祝うにあたり、私たちは、アレキサンダー判事に敬意を表します。彼は、私たちの協会を設立しただけでなく、「強い義務感を持つ義務はすべての権利に伴う」という責任に根ざした人生哲学を私たちに授けてくれました。今日、YMIは、戦略2032を掲げ、自信を持って第2世紀へと歩みを進めていますが、私たちは、この同じ精神を継承し、友愛を深め、リーダーをエンパワーし、包摂的なコミュニティを育み、健康、教育、そして環境において真のインパクトを生み出しています。したがって、創立記念日は単なる追悼ではありません。それは、呼びかけです。私たちのコミットメントを深め、情熱を再燃させ、希望が絶望に、奉仕が無関心にとって代わる世界を築き続けるための呼びかけです。私たちが受け継いできた遺産を、誇りを持って祝い、決意を持って前進し、1922年にアレキサンダー判事が灯した光が、私たちを通してこれからも明るく輝き続けるようにしていきましょう。



「…ワイズマンであることは、何を信じるかではなく、何をするかによって決まる…ワイズマンの証である無私の奉仕の美德は、同胞への愛の体現である…」

ポール・ウィリアム・アレキサンダー、1951年

世界中のYMIクラブ会員の皆さま、創立記念日おめでとうございます。私たちの共通の使命が、今日も、そしてこれからも、人々の心に刺激を与え、高揚させ、変革をもたらし続けますように。

サンタクロースって誰？

ヴィリー・モルゴー キリスト教強調国際事業主任

オランダの子供たちは、「サンタクロース」はスペインに住んでいて、クリスマスにプレゼントを届けに来ると教えられています。多くの国では、子供たちは、フィンランド北部のサンタクロースにクリスマスの願い事を書いた手紙を送り、アメリカの子供たちは、アラスカのサンタクロースに手紙を書きます。デンマークでは、手紙はグリーンランドに送られます。一方、ガーナでは、サンタクロースはジャングルに住んでいるという噂があります。

しかし、本当のサンタクロースは、4世紀にミラ（現在のトルコ、デムレ）に住んでいたキリスト教の司教でした。彼の名前はニコラスでした。ある日、ニコラス司教は、貧しくて誰も結婚相手になってももらえないと嘆く3人の若い娘たちの会話を偶然耳にします。困窮した父親は、仕事がなく、娘たちの結婚式費用を賄う望みすらありませんでした。ある夜、ニコラス司教は娘たちの家に行き、開いた窓から大きな金貨の入った袋を投げ入れました。「これが一番いい方法だ」と彼は、思いました。「あからさまにお金を渡したら、娘たちは気分を害するかもしれない」。翌日、家族は、お金を見つけ、長女は、結婚することができました。同じことがさらに2回起こりましたが、最後の時、父親は、誰が金貨の袋を持ってきたのかを突き止めました。

父親は恩人に感謝したかったのですが、司教は、善行を行う機会を与えてくれた神に感謝すべきだと諭しました。ニコラス司教は、343年頃に亡くなった直後、その慈善行為が認められ、聖人として崇められました。6世紀までには、東方正教会とローマカトリック教会の両方で正式に称えられました。時が経つにつれ、彼の物語は、クリスマスにこっそりと贈り物を届け、世界中の子供たちにクリスマスの魔法をもたらす父親のような存在として、人々に愛される伝説へと発展していきました。



聖ニコラスの活動は、YMIの使命の中核を成しています。それは、クリスマスだけでなく一年を通して、必要とされる場所に助けを提供することです。彼の物語は、私たち皆が隣人に対する責任を共有していることを思い出させてくれます。

聖ニコラスからサンタクロースへ

ミラ出身の聖ニコラスの物語は、ヨーロッパを巡り、最終的にオランダに伝わりました。そこで彼は、「シント・ニコラース」（聖ニコラス）の短縮形である「シンタクラース」として知られるようになりました。1600年代にオランダ人入植者がアメリカにこの伝統を持ち込んだことで、シンタクラースは徐々にサンタクロースへと変化し、現在では多くの英語圏の国々でこの名が使われるようになりました。





国際兄弟クラブ (IBC)

国際兄弟クラブはYMI運動を推進できるか？

ジョウン・ウォン

IBC国際事業主任

親睦は、ワイズメンズクラブ国際協会の中心的な柱であり、私たちの奉仕と繋がりを形作っています。クラブ間の強固で支え合う関係を築くことは、私たちの運動の重要な側面です。国際兄弟クラブプログラムは、国境を越えたクラブでも、世界をまたいだクラブでも、YMIクラブが互いに学び合い、アイデアを交換する場としてデザインされています。時とともに、国際兄弟クラブの取り組みは拡大し、以下の機能も含まれるようになりました。

- YMIのすべての個人にプログラムに参加する機会を与えること
- 世界平和、兄弟愛、キリスト教の価値観を推進すること
- 運動の中でより緊密な関係を育むこと
- 異なる文化間の理解を促進すること
- 励まし、サポート、刺激を与えること
- アイデアや経験を交換すること
- 別の言語を学ぶこと

異なる国にまたがる2つ以上のワイズメンズクラブは、相互の利益のためにパートナーシップを結ぶことができます。これにより、国境を越えて視野を広げ、国際理解と友情を育むことができます。多くの「三角」関係、また、「四角」関係の兄弟ブラザークラブも存在します。

現在、400以上のクラブが様々な国と地域でIBCと提携関係を築いています。2025/2026年度には、新たに8組のIBCクラブが提携を締結しました。また、さらに8組のクラブが積極的に兄弟クラブを探しており、関心表明を待っています。



IBC関係を築いた後は、クラブ間の強い絆と友情を維持するために、手紙、クラブ会報、テープ、ビデオ、訪問など、頻繁な連絡やコミュニケーションが不可欠です。BF基金を活用した文化交流を通じた協力は、クラブ間の交流をさらに強化するのに役立ちます。

IBCの締結に興味をお持ちのクラブは、パートナーシップ構築をお手伝いいたします。[国際協会ウェブサイト](#)のIBCのページをご覧ください。または、ジョウン・ウォン (joanwongyy@gmail.com) までメールでご連絡ください。

アフリカ地域ニュース

ジョウン・マティ アフリカ地域ニュース 編集者

気候変動との戦い

2025年10月21日、ヤウンデのセプトコリンズ・ワイズメンクラブは、バチエンガ公立高校で植樹イベントを開催し、生徒、学校職員、そして地元NGO「グリーンランド」（設立間もない地域団体）と協力し、67本の植樹を行いました。アフリカ北西区のアラン・コテル・クアム理事が主導するこのイベントは、クラブメンバーが学校関係者やグリーンランドのメッシングプロモーターと協力し、実施されました。参加者は、環境保護、大気質、生物多様性について学びました。このイベントは、カメルーンの中高等教育大臣が導入したグリーンスクールプログラムを促進する取り組みの一環です。



メアリーのiGoの旅：成長、奉仕、探求

インドYMCA同盟が後援するナイロビメトロYサービスクラブのiGo参加者、メアリー・シミュは、「若者の未来を照らす」事業を通じて、調査やデータ入力を支援し、スキルを磨いてきました。また、薬物乱用啓発に関する青少年ワークショップに参加し、聖書朗読を通して、祈りの週に貢献しました。現在はビムタルYMCAを拠点にしていますが、3日間の地域青少年キャンプに参加し、新しいワイズメンクラブの発足式に立ち会いました。さらに、15人の女性に美容と仕立ての研修を提供するYMCAプロジェクトを訪問し、周辺の村や湖を散策しました。

魂の窓

2025年10月25日、ナイロビシティYサービスクラブは、ライオンズ・サイトファースト眼科病院と協力し、ウモジャ3のアバンダント・ライフ・セレブレーション教会で医療キャンプを実施しました。154名を対象に、無料の眼科検診、血糖値検査、眼圧検査が行われました。一部の患者には眼鏡と薬が支給され、他の患者には病院で無料の白内障手術の予約が取られました。



実りある一日

2025年11月15日、ナイロビワイズメンズクラブとキトゥイワイズメンズクラブは、ケニア政府観光野生生物保護局と協力し、キトゥイのムランゴ総合学校に数百本の植樹と50本の果樹からなるYMI果樹園を設立しました。ナイロビクラブは、学校の理科実験室の設備を、政府チームは、貯水タンクを提供し、キトゥイクラブは、集水システムを設置する予定です。この日は、食事、親睦、そして2人の新クラブ会員の入会式で、さらに充実した一日となりました。



アジア太平洋地域ニュース

利根川恵子 アジア太平洋地域ニュース編集者

香港



11月25日、香港バウヒニア・ワイズメンズクラブは、大阪センテニアル・ワイズメンズクラブと共催し、40年以上にわたる友情とパートナーシップを記念するIBC親睦夕食会を開催しました。出席者には、元地域会長のチョウ・ウォン・ピン、広報国際事業主任のアンディ・フー、IBC国際事業主任のジウン・ウォン、部長のセシリア・ローなどが名を連ねました。

日本

11月15日、伊東ワイズメンズクラブ50周年を祝うため、東日本区と西日本区から150名を超えるワイズメン・ウィメンが集まりました。現在の会員数は15名ですが、クラブは、50年以上にわたり地域奉仕活動で輝かしい実績を誇っています。主な奉仕活動としては、地域の青少年団体への支援、スポーツ・文化イベントの企画などが挙げられます。祝賀会では、金子正樹会長と榎本博区書記が出席者のこれまでの支援に感謝の意を表し、今後の活動強化を誓いました。



11月7日、東日本区の生川美樹BF代表がスリランカに到着しました。滞在中、マハヌワラクラブとセンカダガラクラブから温かく迎えられ、クラブの活動について学び、活動にも参加しました。また、キャンディ・ワイズメネットクラブにも招かれ、地元の児童養護施設を支援するキャンペーンに参加しました。

台湾



11月1日、台湾区は、台中市卓蘭鎮で3年連続となるワイズメンズクラブ国際協会マラソンを開催し、盛況のうちに幕を閉じました。前田佳代子アジア太平洋書記をはじめ、多くのYMIクラブ会員がランナーたちを応援しました。



11月8日、台南ワイズメンズクラブは台南YMCAと共同で、5人制バスケットボール大会を開催しました。このイベントでは、薬物反対のメッセージを発信し、バスケットボールなどの運動を通して健康的なライフスタイルを奨励しました。

カナダ/カリブ海諸国地域ニュース



共に強く：
地域大会におけるハリケーン救援活動
ジョウン・ウィルソン元国際会の視点から

ジョウン・ウィルソン元国際会長とウガンダのBF
代表ジェームズ・キジト



ハリケーン救援と地域復興が、ジャマイカのネグリルで開催された2025年カナダ/カリブ海諸国地域大会のテーマでした。島全体に壊滅的な被害をもたらしたカテゴリー5のハリケーン、メリッサの上陸から3週間も経たない11月14日から16日にかけて開催されたこの大会は、異例の状況下での開催となりました。

カナダ、ウガンダ、ジャマイカから約35名の会員が集まり、YMIとその使命を喜びをもって祝いました。ジャマイカからの参加者はほぼ全員がハリケーンの被害を受け、屋根の一部または全部を失った人もいれば、家全体を失った人もいました。驚くべきことに、会員やその家族に命の犠牲者はいませんでした。しかし、多くの人々が依然として停電や断水に見舞われ、損傷した屋根に仮の屋根さえかけられない人もいました。それでも、参加者は皆、それぞれの片付け作業を中断し、YMIの仲間との交流を深め、地域の復興活動に協力することを選びました。ジャマイカの代表団の中には、十代の若者や子供たちも何人か含まれていましたが、皆、参加して奉仕することに熱心でした。素晴らしいですね！

当初、苦労して準備された大会プログラムは、参加者が実際の実地復旧作業に多大な時間を費やす必要がありました。



地域大会参加者



「ザ・ソース」の内装清掃



「ザ・ソース」の外装清掃

土曜日、地域大会参加者は2つのグループに分かれ、それぞれ全く異なる2つの場所で清掃活動を行いました。最初のグループは、丘陵地帯にある小さな僻地の学校へ行き、建物周辺の瓦礫を撤去しました。2つ目のグループは、サバンナ・ラ・マールワイズ・メネットが建設・運営するアウトリーチ・コミュニティセンター「ザ・ソース」で活動しました。屋外では、ボランティアたちが屋根材や木の枝を山積みにして、後で撤去できるようにしました。館内では、2つの大きな会議室を清掃し、損傷した家具や備品を撤去して、将来の利用に備えていました。カナダ/カリブ海諸国地域のワイズメネットは、この建物の復旧を支援するために資金を提供しました。参加者は、皆、ジャマイカの猛暑の中、できる限りの支援に尽力しました。



落ちた枝を拾う

日曜日の午後、大会が正式に閉幕した後、数名のカナダ人とジャマイカ人が被災地を訪れ、物資を詰めた袋を届けました。支援がまだ届いていない僻地や山岳地帯に配布するために、さらに多くの袋が確保されていました。



奉仕における交わり



田舎の小学校でのボランティア

ハリケーン・メリッサからの復興

サンドラ・ハミルトン 元地域会長

カリブ海諸国区は、受け取った2,500米ドルの緊急救援金に心からの感謝を表明しました。10月28日にジャマイカを襲ったカテゴリー5のハリケーン・メリッサの復旧・復興活動が続く中、これまでに45世帯が食料、衣類、衛生用品、防水シート、水、浄水錠を受け取りました。

ネグリルで開催されたカナダ/カリブ海諸国地域大会（2025年11月14～16日）中、参加者は、ワイズメンの価値観を実践し、マウントエアリー小学校とサバンナ・ラ・マール・コミュニティセンターで、主に敷地内および周辺の瓦礫の撤去作業を行いました。彼らの尽力のおかげで、学校の6年生は仮設の防水シート屋根の下で授業を再開することができました。

私たちの復興計画は、緊急の救援、男性のメンタルヘルス、コミュニティ施設の修復、高齢者支援、十代の母親への援助、教育支援、環境の持続可能性に重点を置いています。

緊急支援 - 25%

十代の母親への支援、学用品および教師向けリソース、高齢者支援（衛生、栄養、応急処置）、コミュニティ施設の修復、および疾病の発生に対処するための健康教育

男性のメンタルヘルス - 10%

カウンセリングセッション、ピアサポートグループ、意識向上ワークショップ

収入創出 - 60%

生計を回復し、回復力を構築するための農業資材（道具、種子、種苗）と金融リテラシーのトレーニング

説明責任と管理 - 5%

透明な報告と調整されたプログラム管理

現在までのインパクト

カリブ海諸国のYMIクラブは、すでに500人以上の人々に食糧支援を行っており、その活動の価値は100万ジャマイカ・ディナールを超え、実践的で責任ある奉仕への強い取り組みを示しています。

今後の取り組みは、国家復興計画ではしばしば見過ごされてきた、極めて田舎な農村であるバラクラバに重点的に取り組んでいきます。ジャマイカ計画研究所、ニュートラミックス、ジャマイカ・イノベティブ・イニシアティブ財団、そしてNEPAとの戦略的パートナーシップにより、支援活動が実用的かつ持続可能で、地域主導であることを保証します。



デンマークが東ヨーロッパへの勢力を拡大



中央東ヨーロッパ区のモルドバのコーディネーター、ウルリック・ラウリドセン元国際会長、ヘンリック・ジェペセン区事業主任は11月12日にキシナウを訪問し、クラブ担当者のニコラエ、セルゲイ、ドミト、タチアナと会い、新会員と新クラブの紹介について話し合いました。

1991年にソビエト連邦から独立して以来、モルドバはトランスニストリアの事実上の分離独立や限定的な政治・経済改革など、継続的な課題に直面しており、ヨーロッパで最も貧しい国の一つとなっています。こうした課題にもかかわらず、あるいは課題だからこそ、デンマーク区は、モルドバをはじめとする東欧諸国を積極的に支援し、ワイズメンクラブの設立と強化、そして地域全体での活動拡大のための調整、指導、そしてリソースを提供しています。

モルドバには現在8つのワイズメンクラブがあり、そのうちいくつかは新会員の入会を準備中です。2026年5月には、ウンゲニで2つの新クラブが設立される予定です。モルドバのクラブは、YMCAとの強力な関係を通じて、デンマーク区がウクライナ、トランスニストリア、アルメニアで新クラブを設立するのを支援しており、双方からのサポートが受けられます。経済的な困難にもかかわらず、モルドバのクラブはYMIの使命達成に尽力し、デンマーク区は、旧ソ連圏におけるクラブの育成と指導という役割に誇りを持っています。

ロシア地域：ワイズメン・イン・アクション、2025年10月～11月



10月から11月にかけて、ロシア全土のワイズメンズクラブは、地域社会への奉仕と人道支援への取り組みを積極的に行いました。10月1日、エカテリンブルク第2ワイズメンズクラブは、国際高齢者デーを記念してチェルノソヴォ村を訪れ、100歳以上の者々を含む90歳以上の住民を顕彰しました。クラブメンバーは、お茶、クッキー、ケーキ、フルーツ、そして直筆のカードを詰めたギフトボックスを村人たちに直接手渡し、温かい交流を交わしました。



サンクトペテルブルクでは、クラブ会員のリマ・ベログロヴェが娘を訪ねたついでに、地元クラブ主催のWeek4Waste公園清掃活動に参加しました。一方、シニア会員のレジーナとユーリ・スクレンコは、ウクライナ難民のための必需品を集め、スメナとサンクトペテルブルク・メガポリスの各ワイズメンズクラブから速やかに配布されました。

インド地域ニュース

ジョセフ・ヴァルギース

インド地域ニュース編集者

中央トラヴァンコール区



IHM病院における腎臓ケアサポート

パラワイズメンズクラブ会長であるイグナティウス・コラーは、中央トラヴァンコール区の腎臓ケアプロジェクトの下、バラナングナム州マリギリにあるIHM病院の管理者に透析キットを贈呈しました。



ピザク・ウォークソンが慈善事業のためにスタート

ピザクワイズメンズクラブは、2025年11月8日にパラ州議会議員マニ・C・カップンの旗振りのもと、9キロのウォーキングマラソンを企画しました。

南中央インド区



ギリヤナパリのPUMSで夢を育む

ホスール・ワイズメネットクラブは、この田舎の学校を支援し、貧しい生徒たちに本、靴、マットを提供しています。



クーヌールの困窮者に食料を届ける

過去252週間、新型コロナウイルスの期間も含め、毎週、クーヌール・ワイズメンズクラブとワイズメネットクラブは、ディネシュとアニタ・マティアスが率い、セントアンソニーズ教会を通じて100人以上に食事を提供してきました。

南インド区



サティヤマンガラムでの歯科ケア啓発

サティヤマンガラム・シェローズのワイズいメンズクラブは、ケンパナイケン・パラヤムのパンチャヤット・ユニオン小学校の生徒 152 名に、重要な歯科ケアの啓発活動を行いました。



マドゥライの無料アイキャンプ

マドゥライ・ワイズメンズクラブは、マドゥライ・ミナクシ・ミッション病院と提携し、ナサム近郊のゴパルパッティ村の無料眼科キャンプで重要な視力ケアを提供しました。



D.G.ブドゥールでの命を救う献血

D.G.ブドゥール・ワイズメンズクラブは、サティヤマンガラムのIMAで献血キャンプを開催し、12人の寛大な献血者が、困っている人々に命を救う支援を提供しました。

南西インド区



困っている家族を助ける

フューチャー・ポテンコード・ワイズメンズクラブは、神経線維腫症を患うポテンコードの10年生男子を支援するために5万インドルピーを寄付し、緊急の医療費に役立てました。



移動と安心をもたらす

第2部では、高齢者や身体に障がいのある人々に車椅子と大人用おむつを配布しました。

北・東・北東インド区



北・東・北東インド区では3日間の地域ユースキャンプが成功裏に開催されました。

11月14日から16日まで、ウッタラーカンド州ビムタルで「ヒマラヤ登山」が開催されました。第4部（デリー首都圏）が主催したこのイベントには、オリッサ州（カタックおよびブバネーシュワル）、ランチ、ニューデリー、プネ、ビムタルから約40名の若者が参加しました。キャンプの成功に大きく貢献した第4部部長のコシー・アレクサンダー・ヴァイディアンとキャンプディレクターのサム・プラサドに心から感謝します。

韓国地域ニュース

チョン・ギョンジュ 韓国地域ニュース編集者

京畿道区の練炭の配布



11月8日、韓国京畿道区のキム・ジョンテ理事とクラブメンバーらは、暖房用の重い練炭や各種日用品を低所得世帯に運搬し、届けました。

ソウル区のクリスマス平和物語



クリスマスが近づくにつれ、韓国ソウル区では、キリストの平和のメッセージに触発されたイベントを開催し、ウクライナ支援（2024年）や重度障害者支援（2023年）などの支援活動を行っています。2025年には、ソウル区のクラブ会員がパレスチナ平和促進のためのオリーブ植樹募金活動に参加する予定です。11月1日には、第4回ワイズメン平和ウォークソンが開催され、ソウル区が文化パフォーマンスを後援しました。集まった資金は、ロールバック・マラリア・プロジェクトとソウルYMCA青少年薬物防止プログラムに役立てられました。

ブンニョンクラブのヌードルシェアデー

全北区では、ブンニョン・ワイズメンズクラブが毎月第3火曜日に、キム・ジング次期クラブ会長のレストランで高齢者向けにジャージャー麺（黒豆ソースの麺）を提供しています。11月18日は午後5時に開店し、300食以上を提供しました。





釜山ユースクラブのメンバーは、イ・ハウン会長の指導の下、多大浦海岸でボランティア活動を行い、ゴミ拾いや静かな癒しの散歩に参加しました。

韓国地域のエクステンションキャンペーンと4つの新クラブ



ハン・イルウク元地域会長は、YMI 100日間会員増強キャンペーンに引き続き多大なる貢献をしており、Facebookなど韓国地域のさまざまなソーシャルネットワーキングサイトを通じて毎日キャンペーンを積極的に宣伝しています。

11月には、4つのクラブが設立イベントを開催しました。韓国ソウル区では、11月15日にソウル-江東、ソウル-ビクサラン、ソウル-飛鎖の3つのクラブが、西区域では11月20日に天安ブリスフルウォーククラブが設立イベントを開催しました。



米国地域ニュース

メラニー・カアイフエ・ヨシダ 米国地域ニュース編集者

ニューハイドパークでケアを調理



2025年11月3日、ニューヨーク・ロングアイランドYサービスクラブは、ニューヨーク州ニューハイドパークにあるロナルド・マクドナルド・ハウスにて、チャリティブランチプログラムを開催しました。ロナルド・マクドナルド・ハウスは、重病の子どもを持つ家族に、まるで我が家のように安らぎの空間を提供している素晴らしい慈善団体です。メニューには、自家製スパゲッティとミートボール、新鮮な野菜サラダ、旬のフルーツ、そして個包装のヨーグルトカップなど、どれも愛情を込めて丁寧に調理され、提供されました。調理、準備、配膳、後片付けまで、すべての会員が重要な役割を果たし、この日の成功に貢献しました。クラブは誇りを持って奉仕の使命を継続していて、特にイベントの素晴らしいコーディネーターを務めたマーシー・ルコースに感謝の意を表します。

YPN秋季カンファレンスでYMIが輝く



ノースカロライナ州ソールズベリーで開催された2日間のイベント、YPN（YMCAプロフェッショナル・ネットワーク）オブ・カロライナズ秋季会議に、南大西洋区でYMCAスタッフとしても活動するYMIクラブ会員数名が参加しました。このイベントには、数百名のYMCAプロフェッショナルが集まりました。サウスローワンYサービスクラブ会長のキム・ディールがコーディネーターを務め、区理事のフィリップ・ベルフィールドをはじめとするクラブボランティアの支援を受けたYMIブースは、大きな関心を集めました。50ドル分のAmazonギフトカードのプレゼントも話題を呼び、29名の参加者が詳細情報の登録を行いました。この勢いが新たなクラブの設立につながり、この地域で続いている会員数減少への対策につながることを期待されます。



国連デー

国連プロジェクト委員会のメンバーであるロイズ・マラセリーが特定し要約した、12月の主要な国連記念日



ロイズ・マラセリー
国連プロジェクト委員会の
メンバー

平和と発展のための世界科学の日

社会における科学の重要性を強調し、科学の問題に一般大衆を関与させ、平和と持続可能な開発に役立つ科学を推進することを目的としています。

12月1日

国際奴隷制度廃止デー

この記念日は、歴史的な不正義に立ち向かい、現代の奴隷制を根絶し、集団行動と説明責任を通じて人間の尊厳を促進するための新たな努力を求めている、「過去を認め、現在を修復し、尊厳と正義の未来を築く」というテーマの下で実施されます。

12月2日

国際障害者デー

「社会進歩を促進するための障害者包摂的社会の育成」というテーマの下、障害者のエンパワーメントと社会開発の強化につながる包摂的政策、アクセス可能な環境、機会均等の必要性を強調しています。

12月3日

経済社会開発のための国際ボランティアデー

社会におけるボランティアの役割と発展への貢献を称えます。

12月5日

人権デー

「人権、私たちの日々の必需品」というテーマに焦点を当て、基本的人権が日々の生活を形作るものであり、不安、排除、差別の脅威から保護されなければならないことを強調しています。

12月10日

国際ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ・デー

強力かつ回復力のある保健システムの必要性に対する認識を高めます。

12月12日

国際移民の日

世界中の何百万人もの移民の貴重な貢献にスポットライトを当てる特別な機会を提供します。

12月18日

国際人間連帯デー

多様性の中にある世界の統一性を祝う日です。また、連帯の大切さについて意識を高める日でもあります。

12月20日

世界瞑想の日

心の平安と幸福のための瞑想を促進することを目的としており、冬至と一致しています。

12月21日

世界バスケットボールデー

このスポーツの世界的な影響と歴史を称え、1891年に発明者であるジェームズ・ネイスミスによって初めてプレイされたゲームを記念しています。

12月21日

あなたはプレッシャーを感じていますか？

ジョン・ビットルストン テリフィック・メンターズ・インターナショナル

あなたはプレッシャーを感じていますか？もしそうなら、誰から、何のために？わからないかもしれません。あるいは、原因は一つだと思っているかもしれませんが、本当の理由は全く違うかもしれません。何をやるにしても、今、誰もがプレッシャーを感じていることを思い出してください。世界は今、厳しい世界です。あなたや私のプレッシャーは、多くの人が耐えなければならないものよりはるかに軽いでしょう。だからといって、それを許容できるものではありません。私たちは皆、ある意味同じ船に乗っているのです。タイタニック号ではありません。



ストレスの原因をすべて挙げるつもりはありません。そんなことをしたら、永遠にここにいしまうからです。また、すべての症状を挙げるつもりもありません。皆さんも既にご存知でしょう。ですから、早速対処法について見ていきましょう。まず重要なのは、何がプレッシャーなのかを明確にすることです。私たちは皆、悪魔と対峙しています。自分の悪魔について考えるだけでなく、書き留めてください。紙や画面上の悪魔は、心の中の悪魔ほど怖くありません。説明は、明確にしましょう。曖昧な悪魔には対処できません。

次に、「この悪魔を消し去るものは何だろう？」と自問してみてください。もし答えがお金だとしたら、もう一度考えてみてください。もしかしたらそうかもしれませんが、お金は必ずしも簡単に手に入るものではありません。悪魔を鎮める方法は他にないでしょうか？もしないなら、今すぐ、たとえわずかでもお金を稼ぐために何ができるでしょうか？最終的には誰かがあなたを助けてくれるかもしれませんが、あなたが自分自身を救おうとしているのを見れば、彼らはより早く、より寛大に助けてくれるでしょう。与える人は、努力する人を好むのです。

お金を借りなければならないこともあるでしょう。もし借りるなら、信頼できる正当な相手から借りるようにしましょう。家族からお金を貸してもらえるかもしれませんが、家族から借りると家族との関係が変わってしまう可能性があるので注意してください。ヤミ金融には頼ってはいけません。ヤミ金融は危険で違法です。もしすでにヤミ金融の餌食になっている場合は、警察に真実を告げてください。辛い思いをするかもしれませんが、警察は、あなたを助けてくれるか、助けてくれる人を紹介してくれるでしょう。

もし答えが愛なら、今あなたを一番愛してくれる人を愛してみてください。もしそうでないなら、あなたを一番憎んでいると思う人を愛してみてください。私は、この方法で多くの人を成功に導いてきました。愛とは、愛情 (Affection)、気遣い (Attention)、支え合い (Assistance)、つまり人生における3つの「A」です。それぞれが少しずつ必要です。人生のパートナーを選ぶ際には、このことを覚えておくべきです。

では、自分自身に対して理性的になっているか確認してみましょう。私たちは、他人のマネジメントについて学ぶ一方で、自分自身をうまくマネジメントすることを忘れがちです。ぜひ自分自身を批判的に見てください。自分のパフォーマンスの良い面も悪い面も見るのは当然のことです。しかし、どちらも理性的に認識しましょう。過度に批判的にならないようにしましょう。まず第一に、そして何よりも相手のことを考えましょう。そうすることで、誰もが自分自身を客観的に見るができるようになります。

より良いパフォーマンスを求められたときは、「より良い」とはどういう意味か自問自答してみましょう。そして、その具体的な定義を明確に理解しましょう。私には良いメンターも悪いメンターもいました。良いメンターの中にも、多くの人が必要とする戦略を見つける手助けをしてくれず、戦術にばかり気を取られてしまう人がいました。戦術的な解決策の魅力があまりにも大きかったため、戦略が後回しにされることがしばしばありました。プレッシャーを感じているときには、これは致命傷になりかねません。

最後に、決して絶望の淵に迷い込まないでください。ついそうになってしまうものです。でも、翌日には温かい太陽が昇り、恵みの雨が降ります。あなたは、そこにいて、それらに感謝すべきです。

**あなたも彼らと同じくらい強いです。
強くあれ、ジョン・ビットルストン**

Thanks Giving

感謝祭

「主に感謝せよ、主は慈しみ深い。

主の愛は永遠に続く。詩篇118:1

アメリカ合衆国では11月末が感謝祭の季節です。年月が経つにつれ、この祝日の意義がいかに容易に失われてしまうかを思い知らされます。感謝祭は、多くの点で、食べ物、アメリカンフットボール、そして買い物が中心となり、感謝の気持ちを表すという本来の目的は影を潜めています。

感謝祭の起源は、感謝の気持ちに根ざしていると聞きます。その起源は、ピルグリムたちが全く見知らぬ土地に到着し、予期せぬ困難に直面した時に遡ります。神は慈悲深く、先住民を通して彼らを助けました。彼らは知識を共有し、ピルグリムたちと共に働き、彼らが適応し、生き延びることを可能にしました。収穫期には、両者が共に恵みに感謝し、感謝の気持ちで祝いました。感謝祭は、立ち止まり、神が私たちを様々な方法で支えてくださることに気づくための、意識的なひとときとして始まったのです。

多くの家族が、この起源を思い出すのに役立つ小さな伝統を実践しました。祈りを捧げ、特別な祝日の食事をいただく前に、一人一人が昨年の感謝の気持ちを一つずつ挙げました。これは、ゆっくりと時間を過ごし、振り返り、神様がしてくださった良いことを感謝する、意義深いひとときとなりました。

イエスのメッセージを、ほとんど、あるいは全くアクセスできない人々に届けるために、私たちと共に立ち上がってくれる家族や友人たちに、深く感謝いたします。YMIでのパートナーシップによって、この世界的なコミュニティ活動が可能になり、皆さまの献身的な働きは、切実に必要とされている人々の生活を形作り続けています。ピリピ人への手紙1章にあるパウロの言葉を思い出します。

「あなたを思い出すたびに、私は神に感謝します...

それは、あなたがたが福音に協力しているからです。」(ピリピ1:3-5 (NIV))

皆さまが共に歩み、励まし合い、この使命を信じてくださり、ありがとうございます。皆さまのパートナーシップは、私たちの目標とモットーに根ざしたこの偉大な活動の推進に不可欠です。

この季節に感謝を捧げるために立ち止まる時、
私たちは、すべての人々に対して神に感謝します。

神への感謝と栄光を込めて、国際会長 エドワード・K・W・オン